

## 社会調査士資格について

このたびは、ご入学おめでとうございます。

**社会調査士資格**とは、簡単にいうと、**社会のさまざまな領域でますます求められてきている** (=あらゆる地域や国でも、また民間企業・官公庁・フリーランスでも) **"調査"の力を証明するもの**です。一緒に配られている、一般社団法人・社会調査協会のリーフレットによる説明も併せて確認してください。

社会調査協会が認定するこの資格制度に、2017年度から現代社科学科として参加することとなり、大学の授業を受けていくなかで、資格に必要な単位をとることが可能になりました(ただし、最終的に資格を取得するためには、必要な単位をとるだけでなく、各人による申請が必要です)。

資格というものは、それを取得すること自体が目的化するだけでは、好ましくないとされます。資格をとる過程で何を学ぶか、その中身が大事なのは言うまでもありません。一方で、**資格制度によって組まれるカリキュラム**は、資格が証明する力を身につけるために非常によく体系化されたものとなっている場合が多く、**必要な学びを漏れなく行えます**。また、資格というのは証明書なので、それがあれば**他者に対して自分の実力をより一層うまく説明できる**という利点もあります(例:大学卒業後に就職・進学する際、卒業後の転職の際)。

現代社会学科での学びを一定の形としていきっかけを、この資格取得を目指す過程で得てみませんか?

### 資格取得に必要なこと

- 1) 次ページの表、履修要項、Webのシラバスを確認しながら授業を履修したうえで、単位を修得する。  
⇒授業内容は基本的にA科目から順に専門的になっていくので、学習の積み上げを意識してください。特にG科目(演習)は、それ以外の科目で学んだことをフル活用して行われます。そのため、次ページの表の「履修時期」で各科目を履修するようにしてください。
- 2) 定期的に開催される予定の**社会調査士資格ガイダンスに欠かさず出席する**(重要な説明、履修状況確認、調査演習のクラス分けなどを行うので、参加必須となります)。
- 3) しかるべき時期・手順で申請をする(今後のガイダンスや掲示で説明します)(申請は卒業前に大学を通じて行います。個人ではできません)。

まずは、2020年度に「社会学・政治学入門」「社会学概論」の単位を落とさず修得することがポイントです。今回のガイダンスは、次年度4月を予定しています(人文B棟横の掲示に十分に注意してください)。

### Q&A

**Q: 入学したばかりで卒業後のことをまだ考えられない状況だと、資格についてイメージが湧かない…。**

A: 進路についても資格についても早く考えるにこしたことはないのですが、これから徐々に考えていけば大丈夫です。この資格を目指す過程で、公務員、地域系、メディア系、国際系などのさまざまな領域で必要とされる"調査"に共通する力を身につけていくので、他の資格に比べても汎用性が高いと言えます。そのため、最初は難しく考えずに資格取得を目指すということでもよいでしょう。また、最初はとりあえず資格取得を目指すだけだったとしても、その過程で"調査"と社会の繋がりを考えることになり、自分の専門分野や将来についても考えられる可能性があります。

**Q: 最終的に資格をとるか、しばらく迷うことになりそうだけれど大丈夫?**

A: 大丈夫です。この資格のカリキュラムは、本学科の学生全員が必修の授業(学部基礎科目)や、卒業までに全員が選んでとらないといけない学科専門科目の授業で構成されています。ですので、この資格の授業をとっていけば、卒業に必要な単位も集まっていきますし、その過程で最終的に資格をとるかとならないか(=認定の申請するかしないか)を決めていきます。ただし、定期的に開催される予定の社会調査士資格ガイダンスへの参加は必須なので、迷っている段

階でも、人文社会科学部掲示板(人文B棟横)のチェックをマメにしてください。

**Q: 授業を余分にとらなくてはいけなくなって大変?**

A: この資格の授業に関しては、教員免許の一部の授業などと異なり、現代社会学科の学生が卒業に必要な単位にカウントされるものばかりなので、卒業要件外の授業を余分にとらなくてはいけないということはありません。

**Q: 新入生ガイダンス内で説明があるサブメジャー専用プログラムや他の資格とどのように違う?**

A: サブメジャー専用プログラムでの修了認定やiop認定などは、茨城大学という一大学によるものです。一方で、社会調査士資格の認定は、社会調査協会が最終的にいきます。全国の200以上の大学が参加している資格制度であり、制度が始まってから十数年の間に約2万7千人が資格を取得しています。資格そのものの認知度や、認定されることで証明される力の汎用性の高さから、茨城大学の知名度が高くない地域や就職先でもアピールしやすいかもしれません。また、教育免許や学芸員資格のように特定の職業に就くことを主目的とした資格ではないので、最終的にその職業を選ばなかったとしても、資格の持ち腐れ(ちょっと微妙な表現ですが)になる可能性がより少なくなります。

**Q: 国際・地域共創メジャー(国地メジャー)を選ばないと資格を取得できない?**

A: この資格の授業自体は、メディア文化メジャーの卒業単位としてもカウントされるものなので、国際・地域共創メジャーを選ばなかったら取得できないというわけではありません。ただし、学科専門科目のうち自メジャー科目以外で卒業単位として認められるのは12単位(=50-38)なので、メディア文化メジャーに進んだ場合、そのうちほとんどを社会調査士科目が占めることになります。社会調査士科目以外にも履修したい他メジャー科目や自由履修科目が多くある場合、卒業最低数を超えて授業をとることになるかもしれません。卒業最低数を超えて授業をとるつもりであれば問題ありませんが、注意が必要です。

表: 茨城大学・人文社会科学部・現代社会学科で開講される(予定も含む)社会調査士科目

| 科目区分            | 科目内容                | 授業名                       | 履修時期             | 位置づけ                  |
|-----------------|---------------------|---------------------------|------------------|-----------------------|
| A               | 社会調査の基本的事項に関する科目    | 社会学・政治学入門 <sup>1)</sup>   | 1年 前期 2Q         | 学部基礎科目(=現代社会学科全員必修)   |
|                 |                     | 社会学概論 <sup>1)</sup>       | 1年 後期            | 国地メジャー専門科目(&メジャー要件科目) |
| B               | 調査設計と実施方法に関する科目     | 社会調査法                     | 2年 前期            | 国地メジャー専門科目(&メジャー必修科目) |
| C               | 基本的な資料とデータの分析に関する科目 | データ分析法                    | 2年 前期<br>(集中講義)  | 国地メジャー専門科目(&メジャー必修科目) |
| D               | 社会調査に必要な統計学に関する科目   | 政治分析法                     | 2年 後期            | 国地メジャー専門科目(&メジャー必修科目) |
| F <sup>2)</sup> | 質的な調査と分析の方法に関する科目   | 社会行動論 I                   | 2年 後期            | 国地メジャー専門科目            |
| G               | 社会調査を実際に経験し学習する科目   | 社会調査演習ⅢまたはⅣ <sup>3)</sup> | 3年 通年<br>(4単位科目) | 国地メジャー専門科目            |

注 1) 「社会学・政治学入門」「社会学概論」の2つの授業の単位を**同一年度**に修得できれば、A科目として認定。

2) 社会調査士協会の規定で、E科目とF科目はどちらか一つを履修すればよいとなっており、本学科ではF科目のみ開講予定。

3) メディア文化メジャーの学生は、メディア文化調査演習ⅠおよびⅡ(2単位×2)がG科目となる可能性あり(詳細調整中)。

■ **社会調査士を目指す学生むけのサイト(社会調査協会作成)に詳しい説明があるので、ぜひ確認を!** <http://www.jasr.or.jp/students/>



■ **質問がある場合、詳しい説明を聴きたい場合は、遠慮なく連絡責任教員まで問い合わせてください。**

<連絡責任教員> 寺地幹人(社会学・社会意識論・社会調査法) mikito.terachi.socio@vc.ibaraki.ac.jp

※不着防止のため、メールの件名は **社会調査士についての質問(学生番号・氏名)** にしてください。

社会調査士資格を取得して、調査の専門性を活かして活躍している事例を紹介します。

## 準備過程の充実を図る

藤田和夫さん（社会調査士）

2014年3月 関西大学総合情報学部 総合情報学科卒業

2014年4月 高槻市役所 勤務

※所属は『社会と調査』掲載時のものです。

私が社会調査について興味をもったのは大学2年生のとき、大学の講義で社会調査について学んだことがきっかけである。関西大学総合情報学部では、高槻市との共同により、高槻市民の意識調査を行っている。私自身も本調査に参加して、自身の仮説検証の機会をいただき、調査で得られた実際のデータから分析を行った。社会調査の醍醐味は、自身の疑問に思った事象や課題について、仮説を立て、検証していく過程にあると思う。仮説を検証するためにはどういった質問項目が必要なのか、どういった質問なら回答しやすいのか、先行研究はどうなっているのか、回答者側の立場で質問を設計し、その質問から得られたデータを使って分析を行っていくという流れである。よりよい調査を行うためにはこうした準備をしっかり行う必要があり、準備過程の充実を図ることがよりよい調査結果に繋がるということを学んだ。

大学卒業後、私は高槻市役所に勤務しており、私が所属している都市創造部下水道企画課では下水道および河川に関する管理や運営といった事業を行っている。本市の下水道事業は下水道施設の建設・拡張の段階から改築や維持管理の段階へと突入している。今後の下水道事業の課題として、安定的な維持管理を行う必要がある。そのためは、下水道事業の一層の体質強化やマネジメントのレベルアップが必要になってくる。そこで本市では、平成28年度から下水道事業の企業会計化（複式簿記の導入）を行う予定である。企業会計を適用することで、損益計算書や貸借対照

## 社会調査から営業マンへ

浅村直行さん（社会調査士）

2012年3月 桃山学院大学 社会学部社会学科卒業

2012年4月 金沢ケーブルテレビネット株式会社 勤務

※所属は『社会と調査』掲載時のものです。

2014年4月で社会人3年目となる私は、営業マンとして勤しんでいる。高校時代には、「心理学」に興味をもち大学に進学した。そこで出会ったのが「社会調査」であった。元々、興味があった「心理学」ではないものの、「物事の傾向」や「関連性」を解くということは、人間の心理を知ることに近いのではないかと思い「社会調査士」に惹かれることになった。

表といった民間企業が作成しているものとはほぼ同様の会計書類の作成ができる。それにより下水道事業の財政状態および経営成績を明確化することが可能となり、より精度の高い中長期の経営計画を策定し、経営の効率化をめざすことが可能となる。

企業会計を適用するにあたり、どういった組織体制の下で、どういった管理・運営をするのかなど、企業会計を適用している自治体などから情報を集める必要があった。そのために、調査対象とする自治体などの選別をはじめ、アンケートやインタビューといった質問方法の使い分けや設置条例の例規や新予算編成に関わる予算科目・勘定科目等の検討、事務フローの見直しなどに関する質問の設計を行い、着実に準備を進めてきた。こうした職務において、社会調査で学んだ内容が思い起こされると同時に、日々の職務に活かされていると実感している。

よりよいものを追求するためには、準備をしっかり行うことが基本であると同時に最も大事なことである。丹念に取り組んだことは必ずよい結果に繋がっていく。私は、これから社会調査で学んだことを活かし、準備過程の充実を図り、日々の職務に取り組んでいきたいと思う。

(※『社会と調査』第15号[2015年9月] p.116より転載)



大学を卒業し、マスコミ関係の企業に就職した。仕事を選ぶ際に一番強く思っていたことは、「自分が欲しいと思えるものを売りたい」ということだ。そういった意味では、願っていた先に就職できたのではないだろうかとは今感じている。そして、私が暮らしている石川県金沢市は、新幹線開通を2015年に控えさらなる発展が期待されている。これからも大好きな金沢を近くでみることができるということが何よりもやりがいである。

私は自ら「営業」という職種を選んだわけだが、就職して2年経った今でも「物を売る」ということの簡単な方法はわからない。営業とは、売れるか売れないかの二択でありその結果がすべてで

ある。しかし、その結果には必ず理由があり、また、それを調べるうちに傾向がみえてくる。調べる際、いつも社会調査実習でのことを思い出す。調べるとはいえ、アンケートの分析などは行わないものの、物事と物事を関連づけて考えることができるようになったのは、大学時代の経験があるからだと思う。

私が在学していた桃山学院大学は、先輩方の調べたデータをはじめ、参考文献に関しても非常に充実したものがあつた。また、大学4年のときには、ゼミの先生のご協力のもと、東京大学SSJデータアーカイブのデータも利用して卒論を執筆し、社会調査士の資格も取得するなど貴重な経験もさせていただいた。けっしてまじめではない私に熱いご指導をいただいた先生方には今でも感謝に堪えない。

元々、細かい作業が苦手だった私だが、数字から導き出された答えが見つけれられたときの感動は今でも覚えている。ただし、思っていた答えが

## 課題探しを繰り返す

岡島朝子さん（社会調査士）

2005年3月 東京都立大学人文社会学部社会学科卒業

2005年4月 練馬区役所 勤務

※所属は『社会と調査』掲載時のものです。

区役所に入庁して9年。総務、国保、税込納と、3年ずつ3職場を経験してきた。3年。この期間を、私は事務改善の目標にしている。3年目で職場への恩返し。そのためには、1年目でしっかり勉強。疑問は自分のなかで課題としてとっておく。2年目で実践。3年目で事務の見直しをする。このような意識が自分に芽生えたのは、社会調査士の資格取得の過程で、「問題設定→調査設計→実施→分析→さらなる課題の発見」を繰り返してきたからだ。1週間単位のレポートから数カ月単位の調査、1年かけての卒論まで、「問題設定～さらなる課題の発見」のサイクルを自分に課してきた。長期目標、短期目標、今何をやるか。その繰り返しが身にしみついて、職場でも常に課題を探してしまう。課題が見つければ、それを解決するのも、社会調査で学んだことが活かせる。

制度改正（国保料の年金からの特別徴収開始）の主担当になったとき。最初は、何から手をつけてよいか果敢とした。が、法令の読み込みや他自治体/自区の運用の検証は、社会調査の先行研究調べのようなものだ。運用課題の洗い出しは、社会調査士資格取得の過程で学んだ、混沌とした事象から仮説を導き出し、それを文字化する作業のようだった。システム改修点検は、疑いの目をもってデータを精査する作業という点で、社会調査のデータ分析と似ている。運用の整理や研修の実施にあたっては、社会調査のために初対面の人の元へ足を運んだ経験が役立ち、人と調整する作業が苦にはならなかった。

出ないということも当たり前で、それだからこそ社会調査は面白いと感じていた。営業の仕事には非常に似たところがあると思う。現在の仕事は、「社会調査」そのものを行うものではないが、「社会調査士」を取得する際に経験したことは間違いなく今の日々にも生きている。今でも社会人としてやって一人前ではない私だが、きっと「社会調査」から得たものは今後も私を成長させてくれるだろう。

(※『社会と調査』第13号[2014年9月] p.90より転載)



事務改善に取り組むとき。「他部署と入力作業が重複していないか?」「事務手順を簡潔にできないか?」「自分の係の分掌事務になっているが、別の部署で行ったほうがお客様にも職員にも良いのでは?」そんな気づきがあれば、〈疑問→事務の流れを観察→部署へ聞き取り→調整検討(法令上問題があるのか、運用の問題なのか、などを仕分け)→案を文章化→関係する方々から意見を聞き、案を修正→実施〉という手順を踏む。これも、「問題設定→調査設計→実施→分析→さらなる課題の発見」という流れの応用だと思う。

社会調査士の資格取得の過程で学んだことは多いが、なかでもインパクトがあつたのは、「あたり前を疑う」ということだった。仕事も、今ある仕事の仕方を当然だと思っただけで「仕事をこなす」だけになってしまう。法令上問題がないか?より良くできないか?常に疑問をもち、また、課題解決を目標にすることで、日々の過ごし方が変わる。3年後までに見直しをするためには今の事務に精通しなければいけないし、疑問は自ら調べなくてはならない。疑って、勉強して、調べて、行動する。それを、これからは私は繰り返していきたい。

(※『社会と調査』第12号[2014年3月] p.96より転載)

